

ひろば大代

NO.352

大代公民館

H20.11.23

『東京石見高山会総会』 第24回総会の 盛大なつと



高山の里直売所運営組合
柿田 横手新治郎

今年で24回目という、素晴らしい年輪を重ねられた東京石見高山会の総会に出席し、東京の元気をたくさん感じさせて頂きました。

今田東京石見高山会会長様の挨拶は、米国に端を発した世界同時不況は、日本の経済にも大きな影響が出て来ており、景気は大きく後退しました。来年はさらに厳しい年となるといわれております。こんな時こそ、あまりうつむかないで、粘り強く挑戦意欲と団結をもって立ち向かいましょう。

一番大切なことは、健康が大切な資産であり、最後の力になるとNHKテ

レビでも放映して頂きました。いつまでも健康で頑張り、来年の25回総会を皆様と一緒に盛大に開催しましょう。と話されました。

木村関西高山会会長様の激励とお祝いの挨拶の後、木村市議会議員、武田自治会連合会長、今田婦人会長からは、地元の情報提供に併せ、お祝いの挨拶をしました。

懇親会では、3年連続しての「杵による餅つき」。持参した「もち米」と「よもぎ」を入れ、今田会長様がトッポを切って力強い餅つきをされました。続いて今年には米寿のお祝い年になられた初代会長の渡俊則様、特別ゲストとして2回目参加の農村工学研究所の山下裕作様、職場の研修で現在東京に在中の柿田出身の石川忠文様、昨年と交代で威勢良く搗いていきます。

合の手もベテランの木川様、島田様と呼吸もぴったりでスムーズに搗きあげられます。揉み手も馴れた手つきで、鮮やかな緑色の餅が出来上がりました。きつと大代での懐かしい思い出をよみがえらせて頂けたと思います。

そして一昨年に続いて松江市に在住の田中興亜様ご家族による懐かしい歌と踊り。会員の皆さんも一緒に合唱され、参加者全員が懐かしい大代での思い出を回想されているようでした。

「春の小川」「われは海の子」「村祭り」「旅愁」「故郷の廃家」「雪の降る町を」「早春賦」「仰げば尊し」「故郷」等10曲を若夫婦の伴奏に合わせて独唱、合唱と2曲の舞踊で、一層充実した高山会総会に盛り上がりました。

今年の総会は特に家族連れ参加者が多く、これからの東京石見高山会がますます盛んになっていく予感を感じさせて頂きましたので、来年の25回総会が楽しみです。趣向を凝らしたイベントなどが計画されることでしょうか。より多くの方が元気で、再会が出来ます様お祈り申し上げます。

※移転のお知らせ

大田警察署は12/7(日)より

元県大田集合庁舎跡へ移転します

大代駐在所

